

論壇

今年もわが家の庭に、一畝、泡瀬は百十二ギボウシが芽を出しました。辺野古は最大の百七十三畝でした。このか何の手入れもしないのに毎年株数が増えて、夏には花を咲かせます。さて本題に入ります。泡瀬の海草移植のめどが立たないままに埋め立てがどんどん進んでいく中で、普天間基地移設がほぼ確定し、またもや辺野古沖の藻場が埋め立てられるといひます。これがどれくらい規模であるか皆さんご存じでしょうか。環境省のデータ 一九九四年発表では、沖縄県全体の海草藻場面積は二百十



金本 自由生

畝、泡瀬は百十二畝、辺野古は最大の百七十三畝でした。この二つの藻場だけで沖縄全体の藻場の実に23・5%にも及びます。その中にはレッドデ

消滅に向かう沖縄の藻場

「復元は二度とかなわす」

います。泡瀬、辺野古端に少なくなってきたと云ふらう、沖縄の藻場が次々埋め立てられていきまう。これはなぜでしょう。海草藻場が繁茂、合計約二万畝の干潟を失っています。アマモ場を復元するところば、内湾や

と云ひます。泡瀬の埋め立てだけでも沖縄市民の負担額は一人百万円は下らないでしょう。もっと身近な例で言いますと、最近、愛媛県伊予市は財政難から、愛媛県に依頼して埋め立てた公園用地の購入を拒否し、約束違反と、県から訴えられています。県も市も莫大な財政赤字を抱えていてどうしようもありません。環境破壊の原点である埋め立ては、今の沖縄で本当に必要か、もう一度考えてからでも遅くないでしょう。愛媛県、大学教授・農学博士、58歳

金本自由生氏は日本における海草研究の第1人者で、海草調査のため何度も来県しています。01年に発足した海藻草類専門部会の委員も務めました。が、国の横暴な態度（委員会の意見を無視した大型海草の手植え移植実施）に抗議して委員を辞任しました。その後も国・県による埋立事業の問題点（特に海草移植について）を追及している方です。